

# 身体障がい者補助犬について

身体障がい者補助犬とは、目・耳・手足に障がいのある人の生活をサポートする「盲導犬」「聴導犬」「介助犬」のことです。「身体障害者補助犬法」に基づき認定された犬で、特別な訓練を受けています。障がいのある人のパートナーであり、ペットではありません。きちんと訓練され管理も行われているので、社会のマナーも守れますし、清潔です。「犬だから」という理由で受入れを拒否しないでください。

- 盲導犬** 視覚障がいのある人が、街なかを安全に歩けるようにサポートします。障害物をよけたり、立ち止まって曲がり角を教えたりします。ハーネス(胴輪)を付けています。
- 聴導犬** 聴覚に障がいのある人に音を知らせます。お湯の沸いた音、ドアチャイム、電話の着信音などを聞き分けて伝えます。「聴導犬」と書かれた表示を付けています。
- 介助犬** 手や足などに障がいのある人の日常生活動作をサポートします。電気をつけたり、物を拾って渡したり、着衣・脱衣の介助などを行います。「介助犬」と書かれた表示を付けています。

# コミュニケーション支援ボードについて

## コミュニケーション支援ボードとは

障がいのある人の中には、話し言葉でうまく意思や状況を伝えられなくても、イラストや写真などを指さすことでコミュニケーションをとれる人がいます。コミュニケーション支援ボードは、イラストを指さすことで、お互いの意思を伝え合えるよう工夫されたものです。



## 身体障がい者補助犬の受入れに、ご理解とご協力をお願いします。

- 補助犬の同伴を受け入れる義務があるのは、次の場所です。
  - ・ 国や地方公共団体などが管理する公共施設・公共交通機関(電車、バス、タクシーなど)
  - ・ 不特定かつ多数の人が利用する民間施設—商業施設、飲食店、病院、ホテルなど
  - ・ 事務所(職場)—国や地方公共団体などの事務所—従業員50人以上の民間企業
- 補助犬の受入施設の方へ
  - ・ 補助犬は、ユーザーの指示に従い待機することができるので、特別な設備は必要ありません。
  - ・ 補助犬の同伴を受け入れる際に、ほかのお客様から苦情がある場合は、「身体障害者補助犬法」で受け入れ義務があること、補助犬の行動や健康の管理はユーザーが責任をもって行っていることを説明し、理解を求めてください。
  - ・ 補助犬が通路をふさいだり、周囲のにおいを嗅ぎ回ったり、その他、何か困った行動をしている場合は、そのことを補助犬ユーザーにはっきり伝えてください。
  - ・ 補助犬を同伴していても、補助犬ユーザーへのサポートが必要な場合があります。
  - ・ 補助犬ユーザーが困っている様子を見かけたら、声を掛けたり、筆談をしたりしてコミュニケーションをとってください。
- 仕事中の補助犬への接し方
  - ・ 補助犬ユーザーがハーネスや表示をつけた補助犬を同伴しているとき、補助犬は「仕事」中」です。
  - ・ 仕事中の補助犬には、話し掛けたり、じっと見つめたり、勝手に触ったりして気を引く行為をしないようにしましょう。
  - ・ 補助犬に食べ物や水を与えないようにしましょう。
  - ・ ユーザーは与える食事、水の量、時刻をもとに犬の排泄や健康の管理をしています。



## こんなとき、「コミュニケーション支援ボード」の出番です。

- 相手の伝えたいことが分からない。
- 何かを伝えたいことは分かるが言葉を聞き取れない、話の意味が分からない。
- 自分の話が伝わらない。
- 障がいのある人がそわそわしている、ぶつぶつ言っている、困っている、言葉の意味が通じない。

## 「コミュニケーション支援ボード」を利用しましょう。

- 「コミュニケーション支援ボード」を見せて、イラストを指さしてもらいます。
- 相手が指さした内容に答えましょう。

## 相手がイラストを指させない場合は。

- 「なに?」と問い掛けて、指さしの見本を示しましょう。
- 「トイレ?」「いたい?」のように、推測されることを指さして聞いてみます。
- うまく伝わらない場合は、一つずつ指さして聞いてみましょう。

【コミュニケーション支援ボード】P32~33 ▶

### 【相談&問合せ先】

鳥取県福祉保健部 ささえあい福祉局 障がい福祉課

電話: 0857(26)7154  
ファクシミリ: 0857(26)8136

